

浅水管理で初期茎数を確保 除草剤の適期散布で雑草を防除

移 植

1 活着後の浅水管理 ～初期生育の確保に努めましょう～

- (1) 浅水管理（2～3cm）で田水温を高め、分げつの発生を促進しましょう（図1）。
- (2) 「イネがヒョロヒョロしている」、「藻が発生している」、「わいている」場合（写真1）は水の入替えや軽い田干しを行いましょう。

※寒い日や風の強い日は深水にし、苗を保護しましょう。

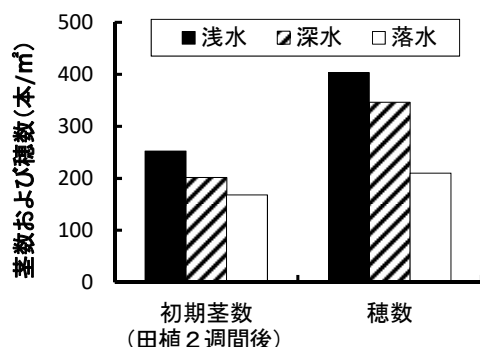


図1 初期の水管理と茎数および穂数（H24）

昨年ひこばえが
大きくなっていたほ場は注意

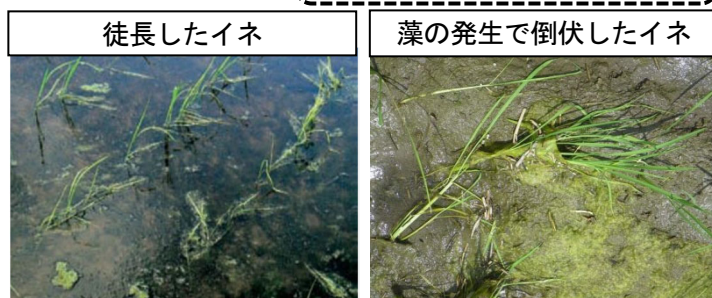


写真1 深水時のイネの状況

2 除草剤散布 ～使用基準を遵守しましょう～

【うまい米づくり情報特別号】および【営農のてびき】P. 34～37 を参照

- (1) 気温が高いと雑草の発生が早くなります。雑草の種類と大きさを確認し、除草剤は遅れず適期に散布しましょう。
- (2) 散布後7日間程度は湛水状態（水深5cm）を保ち、田面を露出させないで下さい。水が不足する場合は、ゆっくりと入水しましょう。
- (3) 除草剤の成分が水田外へ流出しないように、散布後7日間はかけ流しや落水を行わないで下さい。

3 溝切り ～均一な水管理に努めましょう～

- (1) 水管理の効率を高めるため、中干し前（田植後25日頃）に必ず溝切りを行いましょう。
- (2) 乾きにくい箇所に溝を設置しつつ、5mごとに溝を1本以上設置しましょう。また、排水の悪いほ場には溝を多く設置しましょう。
- (3) 溝切り後、必ず排水口に連結しましょう。

【乗用管理機による溝切りの手順】

- ① 溝切り前に2～3日程度軽く干す。
- ② ひたひた水程度に再入水して溝を切る。
→ほ場がかたい場合は速度をやや速め、やわらかい場合はゆっくり走る。
- ③ 旋回する際は、ハンドルを一定にする。
- ④ 排水口と溝を連結する

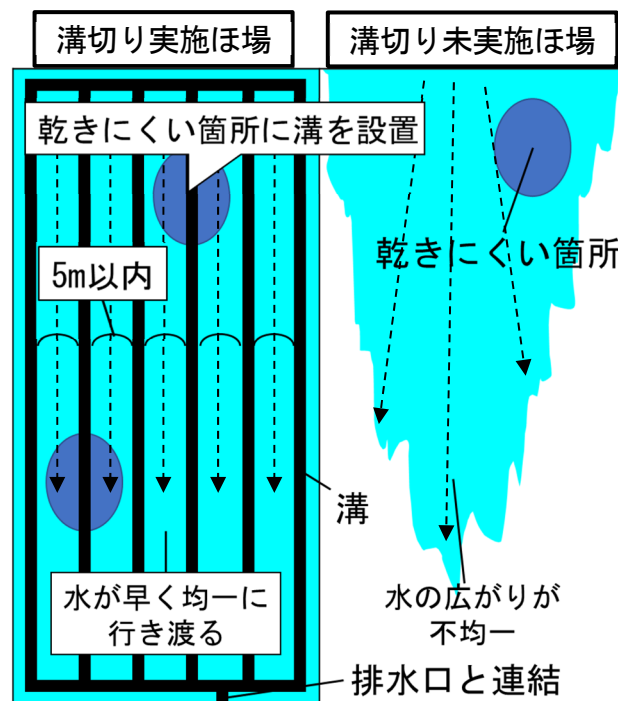


図2 溝切りのポイントと水の広がりのイメージ

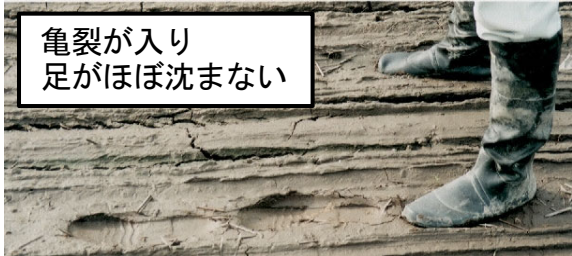
4 中干し ～過剰分げつの抑制、根の伸長促進～

- (1) 田植え後 25 日頃に溝切りを行い、そのまま中干しを開始しましょう。その前に、茎数が目標穂数の 8 割(営農のてびき品種別栽培基準を参照)に達したほ場は速やかに、中干しを開始しましょう。

直 播

1 苗立期の水管理と除草剤散布 ～きめ細かな水管理と適期除草に努めましょう～

【うまい米づくり情報特別号】および【営農のてびき】P. 38～39 参照

鉄コーティング	カルパーコーティング
(1) 播種後 8 日頃から飽水管理を開始し、しっかり根を張らせ、転び苗を立ち上がらせましょう(写真 2)。 ※苗立率を高めるため、播種から 8 日間以上は湛水しない。  イネが立ち上がる 写真 2 飽水管理の様子 (2) 苗立ちが揃ったこととイネが 1～1.5 葉期になったことを確認したら、入水しましょう。雑草が多い場合は、アクシズ M X 1 キロ粒剤やレブラスジャンボ等を散布しましょう。散布後 7 日間は湛水状態(水深 5 cm)を保ち、除草剤の効果を高めましょう。 (3) その後、浅水管理で分げつの発生を促進しましょう(写真 4)。	(1) 田干し(播種後 5～7 日間、写真 3)後入水し、しっかりと水持ちを安定させてからプライオリティ 1 キロ粒剤を散布しましょう。散布後 7 日間は湛水状態(水深 5 cm)を保ち、除草剤の効果を高めましょう。  亀裂が入り 足がほぼ沈まない 写真 3 適度な田干しのほ場 (2) その後、浅水管理で分げつの発生を促進しましょう(写真 4)。苗立数が 10 本/m 未満の場合、軽い田干しを実施し、出芽を促しましょう。  写真 4 浅水管理の様子

2 溝切り ～均一な水管理に努めましょう～

- (1) 水管理の効率を高めるため、中干し前(播種後 30 日頃)に必ず溝切りを行いましょう(表面の「3 溝切り」を参照)。

3 中干し ～過剰分げつの抑制、根の伸長促進～

- (1) コシヒカリの場合、鉄コーティングでは播種後 35～40 日頃、カルパーコーティングでは播種後 35 日頃から中干しを開始しましょう。その前に、茎数が目標穂数の 8 割(営農のてびき品種別栽培基準を参照)に達したほ場は速やかに、中干しを開始しましょう。

春の農作業安全運動・富山県農薬危害防止運動実施中

お問い合わせは、JA なんと営農部(62-0261)または
砺波農林振興センター(32-8147)へ

JA なんとメールマガジン
の登録はこちらから→
営農情報をメールで受け取れます。

